

越の國細見

小川 弘（本町三丁目出身）



これによると、加賀と能登は越前を分割して作ったらしい。能登が先に出来て、加賀はそれから約百年後に出来た。

定している。この木簡とは、地方から朝廷に地方の物産を貢後する時の荷札のようなものである。

越中から分割された四郡とは頬城・魚沼・古志・蒲原らしい。となると、今的新潟県の半分以上が越中に所属していたことになる。吾が父祖の地は当初越中だつたらしい。但し、蒲原郡の範囲が気になる。

吉備の国を分けたのが備前・備中・備後・美作であり、筑紫を筑前と筑後に分割した。毛野の国を上野（こうづけ）・下野（しもつけ）に分けたのはとなく字面から分かる。肥前・肥後・火の國（ひのみやこ）から分かれたが、豊前・豊後は「豊の國」を分け合った。

旧国名の中に国名の前に前中後とか上  
下を付けた国名がたくさんある。前中後  
を付けた国名は越前・越中・越後、備前・

前・肥後等があり、上下を付けたのは上野・下野と上総・下総がある。上下を付けたのは関東にしかない。

後を除けば、全て国境を接している。しかし、越前と越中の間に加賀と能登が挟まっている。このことを、私は長い間不思議に思っていた。

九七)に作られた歴史書で、それ  
約百年の出来事が書かれている)

後者の方は平城宮跡出土の木簡から推

3

「嵯峨天皇廿二十年（八一三）三月の日  
した地図のコピー（人文社）を持つていい  
るが、この地図の冒頭に次ぎの記載があ  
る（意訳）

最近  
古不居で手に入れた本「刀剣の  
山大学教授山口博著、昭和六十年十二月  
発行」に、もう少し細かく載っていた。

蛇足ではあるが 天平時代には今の福島県と山形県以北は出羽と道の奥（陸奥）などと総称されてゐた。よ

一九)に越前の能登・羽咋(はくい)・鳳至(ふげし)・珠洲四郡が能登の国となる。弘仁十四年(八一六)に越前の加賀・江  
沿の二郡が加賀の国となる。越後の国細見図」と三、四年の差はあるが、同じじうな事を言っている。

治新政府が諸大名に版籍を奉還させ、新しい行政区画を策定し、現在の都道府県制度を導入するのに必要があつたからだろう。陸前と陸中があるのに陸後がないのが面白い。明治の役人の手違いがあつたらしい。その辺りが分かると面白くなる。

A map of the Kaga region in Japan, specifically the area around the Sea of Japan (East Sea). The map shows the coastline and several rivers. A line is drawn across the region, dividing it into two parts. The northern part is labeled '越後' (Echigo) and the southern part is labeled '越前' (Echizen). The label '能登' (Noto) is placed near the northern tip of the peninsula. The label '加賀' (Kaga) is placed near the southern tip. The label '出羽' (Etchu) is located at the top right, outside the main peninsula.

A map of the Kiso River basin in Japan, specifically the area around the Shinkawa River (新川). The river flows generally eastward through a valley. Major tributaries shown include the Nagara River (長野) flowing northward and the Iwami River (岩見川) flowing southward. The town of Shinkawa (新川) is marked near the confluence of the Shinkawa and Nagara rivers. The region is labeled as '現在' (Now).